

クマに注意！

－思わぬ事故をさけよう－



ツキノワグマとヒグマは日本を代表する動物です。アニメに出てくるクマはユーモラスでやさしそうです。でも、本物のクマは力が強く、突然出会おうと攻撃することもあります。この冊子では、クマに会わないための工夫、クマに出会ったときの注意事項を紹介します。



環境省

クマはあぶない動物！

クマ（ツキノワグマとヒグマ）は、するどいつメと大きな歯を持っていて、時速 40 キロメートルで走ることもできます。突然の出会いで、引っかかりたり押し倒されたりすると大けがをします。近くにクマの生息が確認されている地域では次のことに注意しましょう。

⚠️ 一人で行動しないで、集団で登下校する。

⚠️ クマの生息する場所に近づかない。



たとえば・・・このような事故がありました。

平成 13 年 6 月：岩手県での事例

→中学生が自転車ごと押し倒され負傷

平成 18 年 9 月：長野県での事例

→通学路わきから突然出てきたクマに会い、中学生が負傷

通学路や山でのクマとの出会いをさけるために！！

クマとの出会いを防ぐためには、クマについて知ることが重要です。
次のような点に注意してください。

クマのことを知る

- クマの生態、行動などをよく知りましょう。
- 地域の自然環境、野生動物に関心を持ちましょう。

クマの出没情報に気をつける


- 出没情報のあったところにはなるべく近づかない。
- 早朝・夜間は出会う可能性が高くなるので注意しましょう。

クマに自分の存在を知らせる

- クマ鈴など音の出るもので存在を知らせましょう。
- クマに出会う恐れのあるところでは走るのはさけましょう。

クマの隠れ場所になりそうなところに注意する


- 見通しの悪いところや沢など狭いところでは注意しましょう。
- 山とつながっている林や川沿いのやぶでも注意しましょう。

 このような場所ではクマとの出会いを避けるよう、特に注意しましょう。




もしクマに出会ったら！！


注意していても、クマに出会ってしまうかもしれません。
もしクマに出会ったら次のように行動してください。

 遠くにクマがいることに気がついたとき

- 落ち着いてその場から離れましょう。
- クマをおどろかすので、大声を出したり、走って逃げるのはやめましょう。写真をとるためフラッシュを使うのも止めましょう。

 近くにクマがいることに気がついたとき

- この時も落ち着いてゆっくりとその場から離れましょう。
- 持ち物があればそれを置いて、離れてください。

 すぐ近くで出会ったとき



クマはおくびょうな動物です。

急な動作で驚き、攻撃してくることがあるので、冷静に、あわてず、クマが立ち去ってからその場を離れましょう。

クマをおびきよせないために！！

クマによる被害を防ぐには、クマを人里に近づかせないことが重要です。
地域で協力して次のようなことを行うことが大事です。

クマが利用しにくい環境を作る

- 通学路沿いの森で、見通しの悪い場所の下刈りをする。
- 隠れ家となりそうな川沿いのやぶを除去する。

クマの好物を取り除く

- 収穫後の農産物、家庭の生ごみは野外に放置しない。
- 庭先のカキ、クリなどは放置しないで早めに取り取る。
- 家の周囲でハチの巣を見つけたらなるべく早く取り去る。

餌付けをしない・ゴミを放置しない

- 人がおいしいものはクマもおいしい。
- クマを食品や生ごみでおびきよせない。
- キャンプ場や山林に生ごみなどを放置しない。



キャンプ場でのゴミ放置



遠足でのゴミ投げ捨て



家庭ゴミの放置



果実の放置

クマの生息地の近くでエサとなる家庭ゴミを捨てるなど、人のちょっとした不注意、不適切な行動がクマをおびきよせ、人身被害の発生など思わぬ結果をもたらすこととなります。十分注意しましょう。

クマの分布域

日本にはヒグマとツキノワグマが生息しています。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国の山地を生息地としています。昔は九州にもツキノワグマが生息していましたが、50年ほど前から生息は確認されていません。

ヒグマ : 北海道の約半分の地域に生息しています。森林を主な生息地としますが、木の少ない原野にも出てくる可能性があります。

ツキノワグマ : 落葉広葉樹林のあるところを主な生息地としています。東北地方や中部地方では6割以上の地域に、関東、近畿、中国地方では3割程度の地域に、四国は限られた地域にだけ生息しています。



クマの生息する地域 (緑色の範囲)

第6回自然環境保全基礎調査(2004)

日本の森とクマ

日本の国土のおよそ4割にクマ（ヒグマ・ツキノワグマ）が生息しています。生息地のほとんどは森林ですが、特にどんぐり類が不作の年は食物を求めてクマの行動範囲は広がり、本来の生息地を離れ、人里近くに近づくことがあります。このときに人との出会い、農作物被害や林業被害などの問題を引き起こすことがあります。

どんぐり類が不作



クマは行動範囲を広げる



人里近くにも出てくる



クマによる被害が増える



かつて里山などの山林は人手をかけて管理されてきました。このことがクマなどの野生動物が人里に近づきにくくしていたと考えられています。しかし、現在では山村地域の過疎化や高齢化など、社会環境の変化により、里山や山林を手入する活動が減っています。

山奥から人里まで切れ目なく続く森林、山奥は自然に任せたゆたかな環境に、人里近くの山林は積極的に利用するなど、人と動物のすみわけにつながるような取り組みが求められています。

クマの生態

クマは小さな音でも聞き分ける能力（聴覚）、イヌのようにわずかなニオイをかぎ分ける能力（嗅覚）をそなえた大型動物で、優れた運動能力をもっています。



- ◎木登り、穴ほりのために強い力と鋭いツメを持っています。
- ◎人より速く、時速 40km 以上で走ることができます。
- ◎水泳も得意で、木に登ることもできます。

12月～4月まで冬眠します
(地域や年により変わることもあります)



冬眠から覚めると山菜などを食べます



冬
春
秋
夏



6月頃に繁殖期

秋になると木の実を食べます

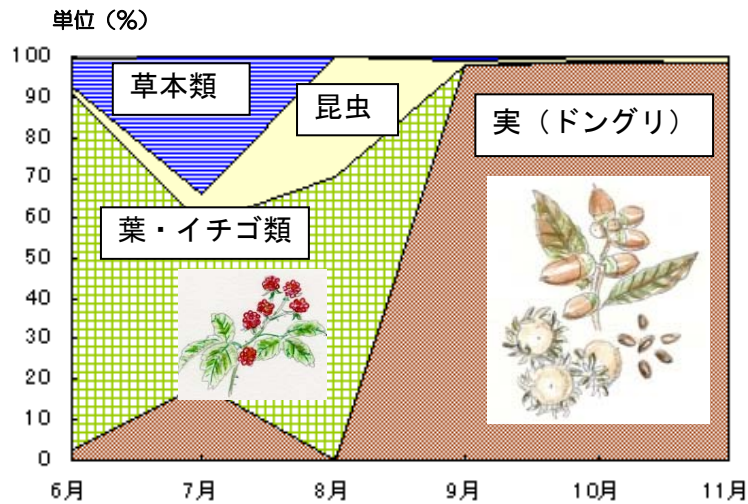


夏はハチミツや昆虫を探して食べます

ツキノワグマと人との関わり

クマの食べ物と生息地

ツキノワグマの食物の9割以上は植物です。春には、芽吹いたブナの葉やさまざまな植物を食べます。夏はアリやハチなどの昆虫を多く食べます。秋になると、どんぐりなど木の実をたくさん食べるようになります。



食べ物の季節変化



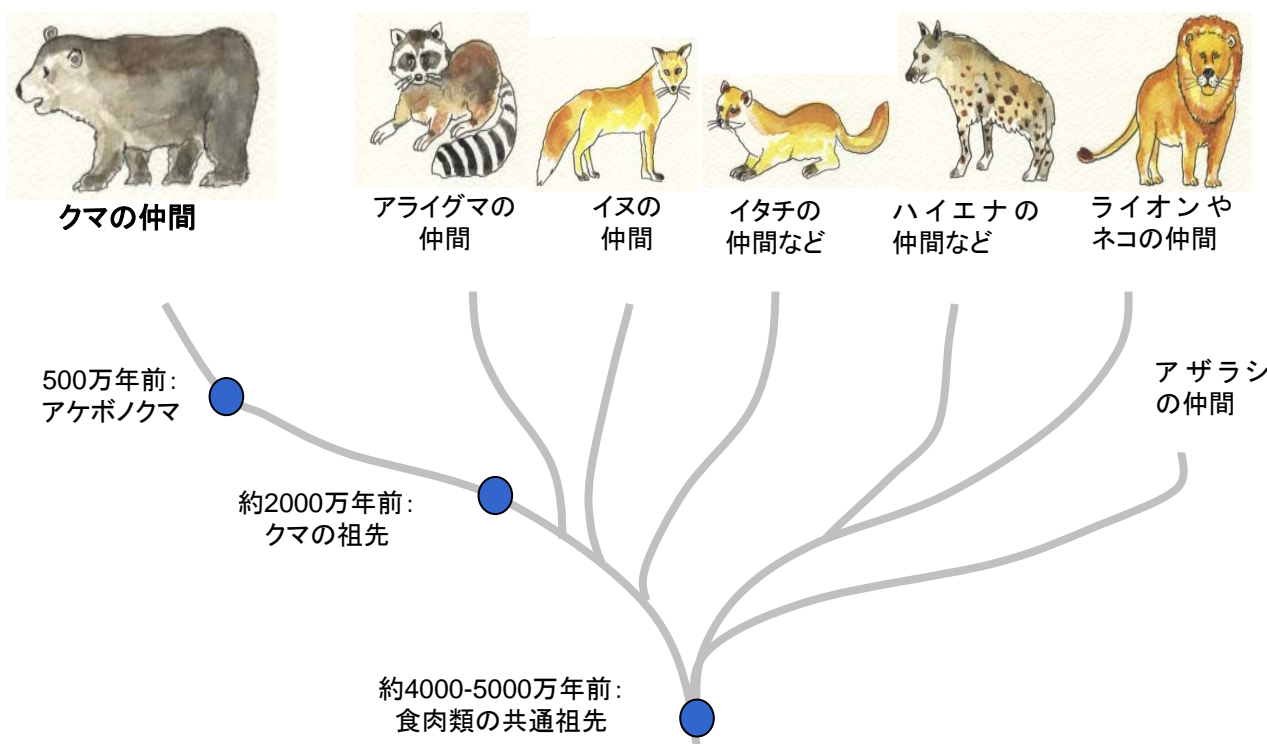
●落葉広葉樹林とどんぐり●

ツキノワグマがおもに生活するのは、落葉広葉樹林の森林です。そこに生育するブナ・コナラ・ミズナラなどの実（どんぐり）を餌としています。このような森林はツキノワグマにとって非常に重要な場所です。

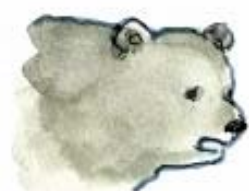
クマの進化

クマはイヌやネコと同じネコ目（食肉類）の仲間ですが、2000 万年ほど前から独自の進化をとげました。植物を食べるのに適した奥歯（臼歯）に変化しているのが大きな違いです。ジャイアントパンダもクマの仲間です。ネコ目には、ライオン、ハイエナ、アライグマ、アザラシなども含まれます。

クマの仲間は、ホッキョクグマを除いて主に森林地帯に生息しています。熱帯地方に生息する3種類のクマ（マレーグマ、ナマケグマ、メガネグマ）とジャイアントパンダ以外のクマは冬眠します（ただし、ホッキョクグマはメスだけが冬眠）。



ネコ目（食肉目）の進化



クマの歯



← 前



ライオンの歯



クマの Q and A

Q クマは肉食動物ではないのですか？

A 肉食もしますが、植物質に偏った雑食性です。食肉類なので、大きな犬歯がありますが、臼歯（奥歯）は植物をすりつぶすのに適した形に変化しています。

Q クマの好物はドングリだけですか？

A ドングリは主に秋に実り、越冬前の栄養価が高いエサとして知られています。他の時期は沢沿いの草本や新芽、新葉 さまざまな種類の果実類など時期に合わせてさまざまなエサを食べています。またハチミツも大好物です。

Q クマはなぜ冬眠するのですか？

A ヒグマとツキノワグマは秋に大量に食べて脂肪をため、エサの少ない冬は冬眠して過ごすように進化しました。一年中、果実や昆虫類が豊富な熱帯地方に生息するクマの仲間は冬眠しません。



Q クマは被害を出す動物なのになぜ保護するのですか？

A クマの生息地に近いところに住む人たちにとって、クマは恐ろしい存在です。でも、食べた植物の種をフンとして出すことで植物の繁殖を助けるなど、クマは生態系を支える役目を果たしています。クマがいる森は、他の多くの動物も生息できる大事な地域です。人里とクマ生息地の間にクマが立ち入りにくい場所を設けるなど、生活圏が重ならないようにすみわけを目指した研究や対策が始まっています。

Q クマをなぜ殺すのですか？

A 奥山の人々は昔からクマを山からもたらされる食料として捕獲してきました。また、そこに住む人たちの命と財産を守るため、畑を荒らすクマなども捕獲されています。絶滅しないよう、生まれる子供の数以上は獲らないなどの制限を設ける必要があります。



Q クマにエサをやっていいのですか？

A エサを与えると、それに慣れて人里はエサをくれる場所、人をエサの供給源と考えてしまいます。それは、農作物を荒らしたり、人をおそう危険なクマを作り出すことにつながることから、絶対にエサをやってはいけません。



キャンプ地でクマにエサを与える。このような行動は、自分だけでなく他の人にも危険をもたらすので、絶対にしてはいけません。

保護者の皆様へ

平成 18 年度は、ドングリ類の凶作等から人里近くに出没するクマが増えたため、全国で 150 名の負傷事故（うち 5 名が死亡）が起きました。事故の多くは、山菜やキノコ採りのためにクマの生息地に入った時に起きていますが、児童生徒の通学路など人里でも発生しています。

最近、通学路で発生した事故では、平成 13 年 6 月に岩手県内で、平成 18 年に長野県内で、中学生が通学途中でクマに襲われました。

この小冊子は、児童生徒が通学路や放課後にクマとの突然の出会いによる事故をなくすために、クマの生態や注意事項をまとめたものです。

保護者の皆様もお子さんと一緒にこの小冊子をご覧くださいとともに、地域で協力してクマを人里に近づけないなどの取組を行って頂くようお願いします。

*クマによる事故を防ぐためにより詳しく知りたい方は、環境省ホームページに掲載している「クマ類出没対応マニュアル」を参考にしてください。

（「クマ類出没対応マニュアル」で検索して下さい）



発行：環境省自然環境局野生生物課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2

編集：(財) 自然環境研究センター

絵：井草志乃
